



学問の自由が危ない！ 学術総動員への布石

上野千鶴子

上野千鶴子

20-22期学術会議会員 23-25期学術会議連携会員

学会推薦候補6名の任命拒否

- 「ここまでやるか！」
- 「とうとう来たか」
- 踏み越えてはならない一線を越えた暴挙

「これはアカデミックパーズだ」 煽動者、攻撃者、威圧者、権力者の連携プレー

- 『世界』上野・保阪対談 保阪正康氏発言
- 煽動者：フジテレビ解説委員平井文夫「学術会議会員になれば年金250万円がもらえる」
- 攻撃者：
 - 甘利明「学術会議が中国の千人計画に協力している」
 - 下村博文「学術会議は答申を出しておらず、仕事をしていない」
 - 上念司（加計学園客員教授）「任命拒否された6人の学術評価はスコーパス（学術評価ツール）で低評価だった」
- 威圧者：行革担当相河野太郎
- 権力者：菅首相

前史：人事を通じての支配 ＝安倍・菅政権の手法

- 日銀総裁 黒田東彦 異次元金融緩和策の採用
- NHK会長 萩井勝人任命
- 「政府が『右』と言っているのに我々が『左』と言うわけにはいかない」
- 「みなさまのNHK」から「アベさまのNHK」へ
- 内閣法制局長官 小松一郎
- 検察庁長官 黒川弘務→失敗
- 反対派の官僚の左遷
- 黒幕は現官房副長官 杉田和博

菅首相のトラウマ

- 2015年安全保障関連法制の審議中
- 参考人の憲法学者全員が「違憲」判定→反対運動の潮目が変わった
- 菅官房長官（当時）
- 「『違憲じゃない』という憲法学者もいっぱいいます」
- 「ではいっぱいあげてください」（辻元清美議員）
- 3人の名前しか挙げることができず、立ち往生した
- 杉田和博官房副長官は安保関連法制の審議当時、公安関係の要職に

学術会議への介入前史

- 2016 会員3名の補充人事を政府が拒否、学術会議は代替推薦をせず欠員が生じた
- 2017 政府の要請で105人を超える推薦名簿を提出、推薦通り任命
- 2018 欠員補充人事に政府が難色を示し、補充見送り
- 2020 推薦名簿105人中6名の任命拒否

学術会議政治介入問題日録

- 0831 新会員推薦名簿105人を内閣府人事課に提出
- 0916 菅義偉新内閣発足
- 0928 菅首相、6人除外した99人の新会員を決済
- 1001 「しんぶん赤旗」が「菅首相会議人事に介入」報道
- 1002 日本学術会議総会で政府に対する要望書提出決議（任命拒否理由と6人の任命を求める）
- 1005 菅首相記者会見「総合的俯瞰的な活動を確保するため」
- 1014 自民党政調「政策決定におけるアカデミアの役割に関する検討PT」発足
- 1029 菅首相国会答弁「民間若手が少なく、出身大学にも偏りがある」
- 1111 自民党「学術会議のあり方を考える」PT発足
- 1126 井上科学技術担当相と梶田会長面会、組織の独立の検討を要請
- 1209 自民党PT提言案「独立した組織として再出発すべき」
- 1216 学術会議改革案中間報告を井上科学技術担当相に提出（5項目）

「学術会議に多様性がない」か？

日本学術会議の女性会員比率

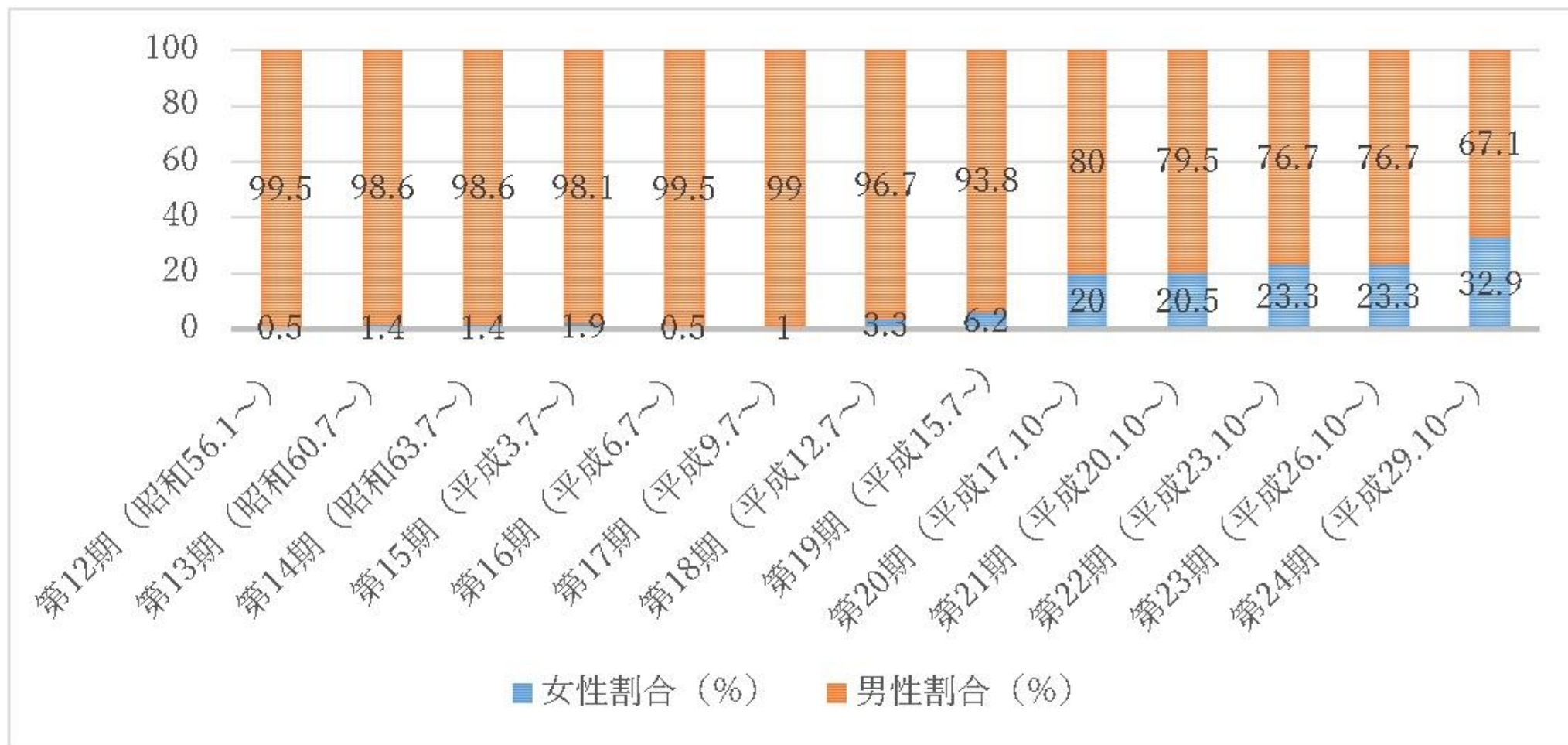
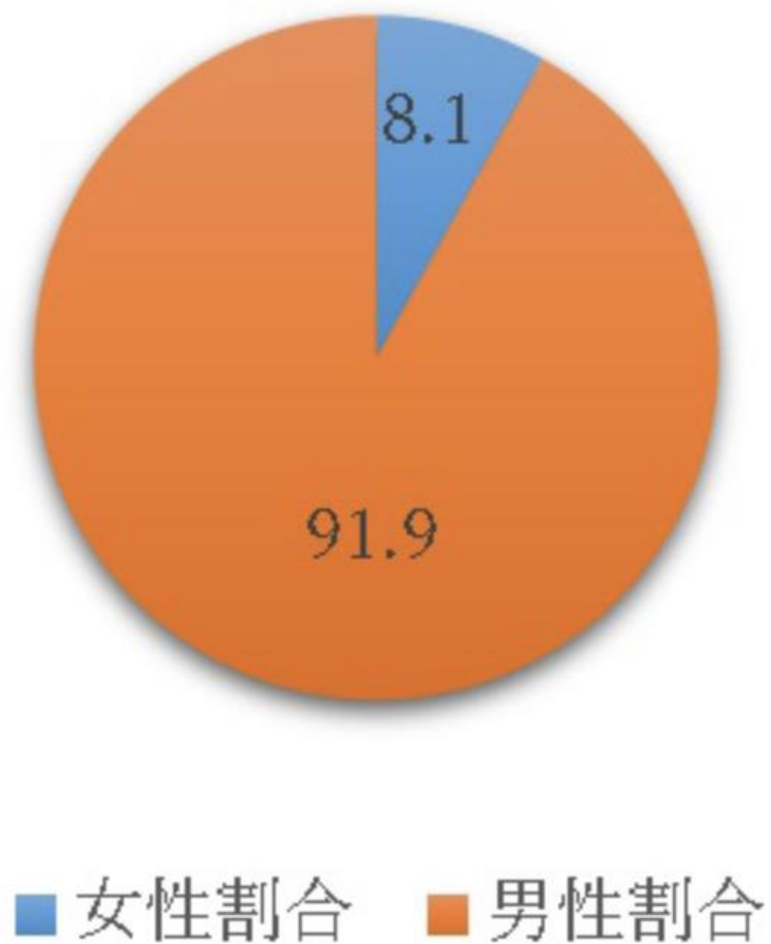
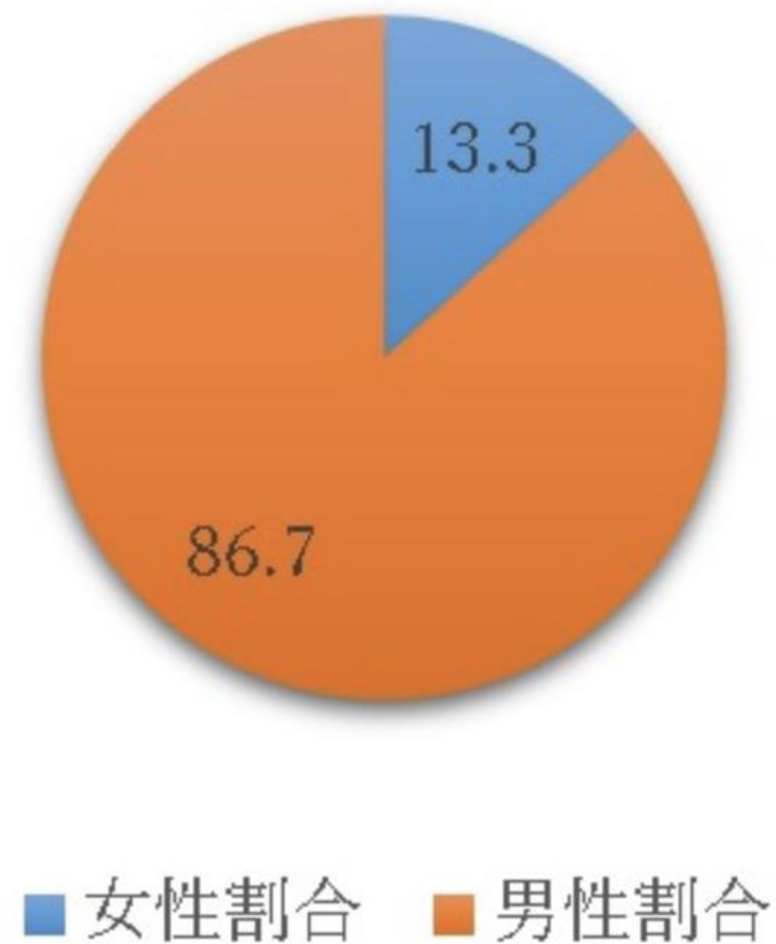


図3 学会の長、学会役員の男女比率

(1) 学会の長



(2) 学会役員



日本学術会議の男女共同参画

- 19期 選考制度の変更（学会推薦からco-optationへ）→女性会員比率2割へ
- 20期（2005-8）男女共同参画分科会（科学者委員会に所属・常設）／学術とジェンダー研究分科会（社会学委員会に所属・1期単位）
- 21期(2008-11) ジェンダー研究分科会／歴史学とジェンダーに関する分科会／ファミリー・バイオレンス分科会／
- 22期(2011-14) ジェンダー研究分科会／複合領域ジェンダー分科会／歴史学とジェンダーに関する分科会／ジェンダー法分科会／ファミリー・バイオレンス分科会
- 23期(2014-17) ジェンダー研究分科会／ジェンダー政策分科会／歴史学とジェンダーに関する分科会／ジェンダー法分科会／ジェンダーと政治分科会／
- 24期(2017-2020) ジェンダー研究分科会／ジェンダー政策分科会／歴史学とジェンダーに関する分科会／ジェンダー法分科会／総合ジェンダー分科会
- 25期（2020.10-）

日本学術会議ジェンダー関連分科会の活動

「提言 男女共同参画社会の形成に向けた民法改正」平成26年（2014年）6月23日

「声明 日本学術会議における男女共同参画の推進について」平成12年6月8日

「要望 女性科学者の環境改善の具体的措置について」（同上）

「ジェンダー問題の多角的検討特別委員会報告 ジェンダー問題と学術の再構築」2003年5月20日

「男女共同参画社会の実現に向けてージェンダー学の役割と重要性ー」平成17年6月23日（2005/6/23）

「学術体制常置委員会報告 女性研究者育成の観点から見た 大学院教育の問題点」平成17年8月30日（2005/8/30）

「対外報告 提言：ジェンダー視点が拓く学術と社会の未来」平成18年（2006年）11月22日

「対外報告 学術分野における男女共同参画の取組と課題」平成19年（2007年）7月26日

「提言 学術分野における男女共同参画促進のために」平成20年（2008年）7月24日

「東日本大震災に対応する第六次緊急提言 救済・支援・復興に男女共同参画の視点を」平成23年4月15日

「報告 学術における男女共同参画 推進の加速に向けて」平成23年（2011年）9月20日

「報告 学術分野における男女共同参画促進のための 課題と推進策」平成26年（2014年）9月30日

「提言 男女共同参画社会の形成に向けた民法改正」平成26年（2014年）6月23日

「提言 科学者コミュニティにおける女性の参画を拡大する方策」平成27年（2015年）8月6日

「提言 性的マイノリティの権利保障をめざしてー婚姻・教育・労働を中心にー」平成29年（2017年）9月29日

「報告 理工学分野における ジェンダーバランスの現状と課題」令和2年（2020年）6月5日

「提言 性的マイノリティの権利保障をめざして（II）ートランスジェンダーの尊厳を保障するための法整備に向けてー」令和2年（2020年）9月23日

「提言 「同意の有無」を中核に置く刑法改正に向けてー性暴力に対する国際人権基準の反映ー」令和2年（2020年）9月29日

「提言 社会と学術における男女共同参画の実現を目指してー2030年に向けた課題ー」令和2年（2020年）9月29日

女性クオータは逆差別か？

- 研究者集団の女性比率 15.7% (2017年)
- 学術会議の女性比率 32%
- 原ひろ子 & 御茶の水大学グループによる調査
- 「同一の地位に到達した男女の研究者を比較すると、女性研究者の業績の方が男性研究者より多い」
- → 業績主義集団の少数者の平均値は多数者の平均値より高い



202030は可能か

—「女性活躍推進法」の実効性を問う—

日時：2016年10月22日(土) 13:00～17:00

場所：日本学術会議（千代田線乃木坂駅）

主催：日本学術会議社会学委員会ジェンダー研究分科会

共催：日本学術会議社会変動と若者問題分科会

後援：日本社会学会、国際ジェンダー学会、認定特定非営利活動法

人ウイメンズアクションネットワーク(WAN)、日本女性学会



【プログラム】

■開催趣旨 遠藤 薫 学習院大学教授

■パネル・ディスカッション

【報告:現場の実情と展望】

- | | | |
|------------|------|-----------------|
| a. 行政の場で | 古澤ゆり | 内閣官房内閣人事局内閣審議官 |
| b. 政治の場で | 行田邦子 | 参議院議員 |
| c. 企業の中で | 麓幸子 | 日経BP社 執行役員 |
| d. メディアの場で | 四方由美 | 宮崎公立大学教授 |
| e. 理系研究の場で | 宮浦千里 | 東京農工大学副学長・大学院教授 |
| f. 教育の場で | 河野銀子 | 山形大学教授 |

【コメンテーター】

上野千鶴子	立命館大学特別招聘教授
大沢真理	東京大学教授

【司会】

遠藤薫	学習院大学教授
-----	---------

■閉会の挨拶 柘植あづみ 明治学院大学教授

申込不要・参加無料



2015年8月28日、女性管理職の割合に数値目標を義務づける「女性活躍推進法」が参院本会議で可決、成立しました。安倍政権は女性の積極的登用を成長戦略の重点として掲げています。背景には、人口減少社会の進む中で労働力不足を補うという狙いもあります。しかし、この目標の達成可能性については、多くの疑問が投げかけられています。

本シンポジウムでは、女性が働くさまざまな場の実情から、「女性活躍推進法」の問題と可能性について議論します。

みなさまのご参加をお待ちしています。

東医大不正入試問題 ゲート・コントロール



公開シンポジウム

横行する選考・採用における性差別： 統計からみる間接差別の実態と課題

東京医科大学の不正入試問題は多くのひとびとに衝撃を与えた。公正であるべき入試においてこんなあからさまな性差別が横行しているのか、と。その後の文科省の調査によれば医学系大学の女子の「入りにくさ」は男子の1.2倍に当たると発表された。応募者と合格者とのあいだに統計的に有意な差を証明することができればそれを間接差別という。

教育の場の選考ばかりではない。男女雇用機会均等法が募集・採用の性差別を禁止してから30年。当初は努力義務だったが、97年改正で禁止規定となったが、採用結果を見ればあいかわらず男子の採用に偏る傾向がある。個別には直接差別を証明できなくとも、ここでも応募者と合格者とのあいだに有意な差を認めることができるだろう。公正であるべき公立学校、公務員、そして、それを報道するメディア…の世界に、あってはならない性別的な選考が横行していないだろうか。

誰もが知っていそうで暗黙のうちに既成事実化している現状を、データから明らかにし、課題と対応を検討する。

2019年6月8日(土)
13:30~17:00
(13:00開場)

日本学術会議講堂

参加費無料・申込不要

主催：
第一部社会学委員会ジェンダー
研究分科会

共催：
日本学術振興会科学研究費基盤
B「東アジアにおける家族とセク
シャリティの変容に関する比較史
的研究」(代表者：日本大学文学
学部・小浜正子)
第一部社会学委員会ジェンダー
政策分科会



総司会 小浜正子 (日本大学文理学部教授)

13:30 開会挨拶 上野千鶴子 (認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長) *

13:40 報告「医学・医療の中における性差別：無知と無認識の現状」
対馬ルリ子 (医療法人社団ウィメンズ・ウェルネス理事長)

14:00 報告「民間企業における性差別：神話と現実」
大沢真知子 (日本女子大学人間社会学部教授)

14:20 報告「教員採用における性差別」
河野銀子 (山形大学学術研究院教授) *

14:40 報告「メディアにおける(採用)差別：「客観・中立報道」神話の中で」
林香里 (東京大学大学院情報学環教授)

15:20 パネルディスカッション
司会 本田由紀 (東京大学大学院教育学研究科教授) *
パネリスト 報告者全員
八木洋介 (株式会社people first 代表取締役)
治部れんげ (ジャーナリスト)
江原由美子 (横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授) *

16:50 閉会挨拶 遠藤薫 (学習院大学法学部教授) *
(*: 日本学術会議会員 *: 日本学術会議連携会員)



- 名古屋地裁のトンデモ判決
- 「同意はない」が
- 「抗拒不能ではない」？

公開シンポジウム

岡崎「性暴力事件」から見えてきたもの — 学術に何ができるか —

2019年4月、名古屋地裁岡崎支部でひとつの無罪判決が下されました。当時未成年だった女性が、実の父親から性的虐待を受け続けてきたという事件に対するものです。
この判決には、広範な人々から疑問や違和感が提起されました。本シンポジウムでは、この「性暴力事件」を多様な視点から検討することにより、日本社会に潜む性差別の深層に迫りつつ「学術に何ができるか」を考えます。

日時：2019年10月20日（日）13:00～17:00

（12:30 開場）

場所：日本学術会議講堂（千代田線乃木坂駅出口5、徒歩1分）

- 参加費無料・申込不要
- プログラムは裏面をご覧ください。



主催：

日本学術会議

社会学委員会・ジェンダー研究分科会

社会学委員会・ジェンダー政策分科会

法学委員会・ジェンダー法分科会

史学委員会・歴史学とジェンダー

に関する分科会

Designed by pngtree

学術フォーラム「新型コロナウイルス感染症コントロールに向けての学術の取り組み」

司会：岸 玲子（日本医学会連合副会長）
秋葉澄伯（日本学術会議第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会委員長）

13:00-13:20 日本学術会議と日本医学会連合からの開会の辞

梶田隆章（日本学術会議会長）
門田守人（日本医学会連合会長）

13:20-13:30 日本学術会議での提言作成の経緯

秋葉澄伯（日本学術会議第二部大規模感染症予防・制圧体制検討分科会委員長）

13:30-14:00 提言の内容紹介

・提言「感染症の予防と制御を旨とした常置組織の創設について」

郡山千早（日本学術会議連携会員、鹿児島大学大学院医学歯学総合研究科教授）
[資料（PDF形式：389KB）](#)

・提言「感染症対策と社会変革に向けたICT基盤強化とデジタル変革の推進」

高倉弘喜（国立情報学研究所アーキテクチャ科学系研究科教授・同サイバーセキュリティ研究開発センター長）
[資料（PDF形式：1.097KB）](#)

14:00-14:45 日本医学会連合とその加盟学会の活動報告と提案

・健康危機管理と疾病予防を旨とした政策提言・支援組織の創設の必要性

磯 博康（日本学術会議会員、日本医学会連合Japan CDC 創設に関する委員会（第二次）委員長、大阪大学大学院医学系研究科教授）
[資料（PDF形式：1.341KB）](#)

・コロナ禍における医療提供体制～外科系学会としての取り組み

北川雄光（日本学術会議会員、日本医学会連合理事、日本外科学会監事）
[資料（PDF形式：1.910KB）](#)

・コロナ禍における医療提供体制～内科系学会の取り組み

館田一博（東邦大学医学部教授、日本感染症学会理事長、日本学術会議第24期特任連携会員）
[資料（PDF形式：3.530KB）](#)

15:00-16:30 学術フォーラム

・新型コロナウイルスのウイルス学的特徴

野田岳志（日本学術会議連携会員、京都大学ウイルス・再生医科学研究所教授）
[資料（PDF形式：1.942KB）](#)

・新型コロナウイルス感染拡大動向の把握に挑む

中野貴志（日本学術会議連携会員、大阪大学核物理研究センター教授）
[資料（PDF形式：836KB）](#)

・臨床の現場からの現状の分析と提案

三嶋廣繁（日本学術会議連携会員、愛知医科大学医学部感染症科）
[資料（PDF形式：2.291KB）](#)

・新型コロナウイルスワクチン開発の現状と展望

朝長啓造（京都大学ウイルス再生医科学研究所教授）
[資料（PDF形式：1.302KB）](#)

・新型コロナウイルス感染拡大で顕在化してきたメンタルヘルス問題対策とは：収束後に向けて

神尾陽子（前日本学術会議会員、日本学術会議連携会員、お茶の水女子大学客員教授、発達障害クリニック附属発達研究所所長）
[資料（PDF形式：1.247KB）](#)

・デジタル技術によるデータ駆動医療

喜連川優（日本学術会議連携会員、国立情報学研究所所長、東京大学生産技術研究所教授）

1019猪口邦子発言「学術会議はコロナ禍で沈黙」



日本学術会議

▶ 学術フォーラム「生きる意味 - コロナ収束後の産学連携が目指す価値の創造 -」 | 日本学術会議

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関です。

日付：2020年10月27日
サイズ：19,304バイト

<http://www.scj.go.jp/ja/event/2020/291-s-0920.html>



日本学術会議

▶ 公開シンポジウム「新型コロナウイルス禍に学ぶ応用物理：未来社会に向けて」 | 日本学術会議

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関です。

日付：2021年02月22日
サイズ：15,072バイト

<http://www.scj.go.jp/ja/event/2021/307-s-0317.html>



日本学術会議

▶ 公開シンポジウム「With コロナの時代に考える人間の「ちがひ」と差別 -人類学からの提言-」 | 日本学術会議

日本学術会議は、我が国の人文・社会科学、自然科学全分野の科学者の意見をまとめ、国内外に対して発信する日本の代表機関です。

日付：2020年10月20日
サイズ：15,000バイト

抗議の動き

- 1009 国内93学会が抗議声明
- 1014 「安全保障関連法に反対する学者の会」が抗議会見
- 1103 「安全保障関連法に反対する学者の会」「全国大学有志の会」が国会前集会
- 1106 人文社会科学系学会連合連絡会記者会見（220余学会の「共同声明」）
- 2021年0130 佐藤学・上野千鶴子・内田樹編『学問の自由が危ない 日本学術会議問題の深層』緊急出版
- 0220 人文社会系学協会連絡会編『私たちは学術会議の任命拒否問題に抗議する』
- 現在までに1500を超える団体から抗議声明

抗議声明の論点整理 津田大介「1000を超える学協会の抗議声明から読み取れること」

- 1 政治的意図
- 2 法律論
- 3 制度論
- 4 日本学術会議という組織の意義

子問の自由が危ない

上野千鶴子 編
内田樹

日本学術会議問題の深層

鳥文社

これはもはや学問の自由のみならず民主主義の危機！

学問の自由はなぜ守られなければならないのか。アカデミアの自由と独立を侵害する危機に際して、学術関係者が結集して編んだ緊急出版。任命拒否6名のメッセージも収録。

鳥文社

1933年 滝川幸辰事件

1940年 津田発禁／美濃部達吉天皇機関説弾圧事件

品田悦一「『頼むから』抗議声明について」（上代文学会理事）

- 「日本学術会議問題をめぐる昨今の情勢には、かつて政府が露骨な言論操作によって戦時体制を着々構築していった昭和初期の状況を思わせるものがある」
- 「1933年には京都帝大法学部教授・滝川幸辰の刑法学説を危険視した文部大臣・鳩山一郎が大学に圧力をかけ、これに反発した法学部教授が全員辞表を出して抵抗、学生たちも連日集会を開くなどして盛り上がる」
- 滝川事件のとき抗議した教授たちは、やがて切り崩しに遭い、一人また一人と辞表を撤回して、抵抗は結局尻つぼみに終わってしまった。抗っても無駄だとの無力感が蔓延したのだろう、二年後に美濃部達吉の天皇機関説が弾圧されたときには、お膝元の東大法学部からも、他の大学からも反対の声はほとんど挙がらなかった。たった二年でこれだけ状況が悪化した」
- 「津田の著作が発禁処分を受けた1940年には、もう一切が手遅れになっていた。…「人文系の多くの学会が任命拒否に声明で抗ったという事実を後世に残すこと」はまったく手ぬるいと思う。今、一步でも引いたらファシズムが待ち受けている。抵抗の事実をまともに評価できるような「後世」などないものと思わなくてはならない。」

抗議声明

上代文学会常任理事会2020.10.10

- 私たちは、かつて津田左右吉の『古事記』『日本書紀』研究が国家権力によって弾圧された経緯を熟知しています。…戦後の上代文学研究者は、日本史研究者とともに、津田の受難を二度と繰り返さないことが研究発展のために必須であると考え、そのために相互努力を惜しまないことを不文律としてきました。
- 「前政権以来、この国の指導者たちの日本語破壊が目に残ります。…日本語の無力化・形骸化を深く憂慮します。頼むから日本語をこれ以上痛めつけないでください」

12月16日「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」

- 1 科学的助言機能の強化
- 2 対話を通じた情報発信力の強化
- 3 会員選考プロセスの透明性の向上
- 4 国際活動の強化
- 5 事務局機能の強化

National academyが持つべき 5 要件

- 1 学術的に国を代表する機関としての地位
 - 2 そのための公的資格の付与
 - 3 国家財政支出による安定した財政基盤
 - 4 活動面での政府からの独立
 - 5 会員選考における自主性・独立性
- 現在の学術会議はこの5要件を満たしており、これに代わる代替案はない

政権の意向 = 学術会議の無力化

- 2008年以降、答申なし←諮問なし（審議会方式による学術会議はずし）
- 2004年以降日本学術振興会審査委員の推薦方式変更（科研費配分への学術会議の影響を排除）
- 2001年「総合科学技術会議」設立
- 2014年「総合科学技術・イノベーション会議」に改組（学術会議会長が構成員のひとり）

さらなる介入？

- 国立大学の学長任命拒否
- 科研費への介入
- 大学の教員採用への介入
- 研究者の研究テーマへの介入
- 文化芸術助成への介入（あいちトリエンナーレへの補助金削減）

政権のシナリオ（予想）？

- 第1ステップ：学会の政府機関からの独立・切り離し→公益法人化（民間団体化）
- 第2ステップ：政府直轄の専門家集団による諮問機関の設置（御用学者団体）
- 第3ステップ：政策への専門家のお墨付き（原子力規制委員会／コロナ対策専門家分科会）
- 第4ステップ：大学人事・科研費配分への介入

学術（人文社会科学を含む）総動員体制

- 1995年 科学技術基本法制定
- 「人文科学のみに係わるものを除く」
- 2015年下村博文文科相（当時）教員養成系と人文社会科学系の学部・大学院について「組織の廃止や社会的要請の高い分野への転換に積極的に取り組むよう」通知
- 2020年6月 改正
- 「人文科学を含むあらゆる分野の科学技術に関する知見を活用すること」
- 3. 11とコロナ危機から学んだこと＝リスク管理

軍事研究の何が問題か？

- 1948年学術会議発足
- 戦争の反省から、政治から「学問の自由」を守り、戦争による「学術動員」を許さない拠点として設立
- 1950年「戦争を目的とする科学の研究は絶対にこれを行わない」声明
- 1967年「軍事目的のための科学研究を行わない声明」
- 2017年「軍事的安全保障に関する声明」
- 2015年「高レベル放射性廃棄物の処分に関する政策提言」
- 軍事研究の何が問題か？学問は公共財／公開性・共有性・蓄積性が損なわれる／軍事研究はより効率的な殺人と破壊の研究

「反日的研究に国費は出せない」 杉田水脈議員

- 「慰安婦」研究
- フェミ科研裁判
- 「反日的」 = 「反政権的」



9.03.30 Sat



憲法23条が保障する「学問の自由」とは

- 「学問の自由の保障とは、学者が学問的良心に従って行った言動の評価は、まずは学者どうしの討論に委ね、最終的には歴史の判断に委ねるべきであり、まちがっても<時の権力者>が介入すべきではない、ということである」
- (小林節・慶應義塾大学名誉教授)

学問は異論から発展する

(品田悦一「『頼むから』抗議声明について」)

- 「人文学の営みとは相互批判の実践にほかならない」
- 「周囲をイエスマンで固め、異論を権柄づくで排除し、あくまで横車を押し通す指導者は、相互批判によって知の高みをめざすことを知らない愚か者であり、したがってまた、民主主義からも最も遠い存在である。
- 一言で言おう。 **菅義偉はファシストである**」

政治介入を奇貨として・・・得たもの①

- 分野を超えた学協会の連携
- 計1500を超える抗議声明
- 学術以外の裾野の広がり（文化、芸術、映画、、文学等）
- 「人文・社会科学系には連合体どころか学協会間の連絡を司る仕組みさえ、これまで作られてこなかった。皮肉なことに、一線を越えたこの事件が、まとまりのない学問の世界に新しい関係を築いたことになる」（坂上貴之・日本心理学会理事）

政治介入を奇貨として・・・得たもの②

- 学術会議の存在が知られるようになった
- 無知より無関心、無関心より敵意
- 学者叩き・反主知主義・エリート嫌いはもともとから
- 「6名」 石川逸子（詩人）

6名は きっと あなたであり

わたしなのです

わたしたちの首を絞める 手が

すぐそこまで スウツと伸びてきています

「あいトリ」 検証委最終報告書

「「怪我の功名」的な側面ではあるが 現代の芸術文化の社会的状況を露わになり、関連して、活発な議論が引き起こされた。」

「「反知性主義」の存在が可視化された。」

「表現の自由・芸術文化の公共性をめぐる多様な考え方の存在とその違いが明るみに出た。」



「ソフトな恐怖政治」

小崎哲也『現代アートを殺さないために』

- 「2019年9月に文化庁が下した決定（「あいトリ」への補助金不交付決定）は文字通り画期的な意味を持つ。国が文化芸術の内容に介入し、事後であっても恣意的に補助金をカットしうることを露骨に示したのだから、国は伝家の宝刀を抜いたのであり、今後もいつでも抜くことができる。」
- 「2020年10月に菅義偉首相が日本学術会議に…6名の任命を拒否したのはそれを証だてる実例である。（中略）「理由がなんであれ、政権には拒否する権限がある」ということを、暗に、しかし誰にでもわかるように示すことが目的なのだ。」
- マリア・アリューヒナ@プッシーライオット
- 「自由と民主主義を信じる人たちは、それが永遠につづくと思っている。でもそれはまちがっている。ロシアで私たちに起こったことは、どこでだって起こりうる」

マルティン・ニーメラー牧師の警告

ナチスが最初共産主義者を攻撃したとき、私は声をあげなかった
私は共産主義者ではなかったから

社会民主主義者が牢獄に入れられたとき、私は声をあげなかった
私は社会民主主義者ではなかったから

彼らが労働組合員たちを攻撃したとき、私は声をあげなかった
私は労働組合員ではなかったから

そして、彼らが私を攻撃したとき 私のために声をあげる者は、
誰一人残っていなかった